

出張報告

報告日

令和6年2月16日

会 派 名	自治研究会		
報告者氏名	山崎 智仁		
種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議		
用 務	まちのブランディングと魅力の発信		
日 時	令和6年1月30日(火)	10:00~11:30	
場 所 (会 場)	尼崎市役所		
調査項目等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化資産を中心とした観光地域づくり ・居心地よく歩きたくなる駅前空間の創出 		
概 要	<p>尼崎市は人口454,887人面積50.71km²、コンパクトな市域に都市機能が集積しており、大阪神戸へのアクセスが良く、阪急・JR・阪神3社13駅を抱え、平坦で自転車の利用が多い地域である。</p> <p>《地域文化資産を中心とした観光地域づくりについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神工業地帯に位置し、重工業〈鉄鋼業〉が盛んであったため、「治安が悪い」や「公害の街である」イメージを払拭する取り組みの必要性から、観光への取り組みを始める。 ・観光に力を入れたのは平成25年に市役所内にシティープロモーション推進室を設置したことが始まりとなる。 ・平成30年に設立された、あまがさき観光局が中心となり阪神尼崎駅周辺を「観光の重点取組地域」として一体的な賑わいを創出している。 ・阪神電鉄が駅前の中央公園のリニューアル事業を行っている。また、重点取組地域内には尼崎城、中央商店街、戎神社、寺町などが密集している。 ・重点取組地域周辺の取り組みとしては阪神大物駅周辺で阪神タイガースファーム施設の整備が進んでいる。 ・大阪・関西万博を契機として、インバウンド推進、ベイエリアの活性化、工業地帯で出張の出入りも多い地位であることからお土産の認定なども行っている。 ・観光関係者のプラットフォーム整備（DMO化）は検討中である。 ・観光局にはインスタグラマーやフォトグラファーなどを適宜ポイント的に専門人材として活用している。 		

【質疑・回答】

Q. あまがさき観光局と地域事業者や住民との関わり方について

A. 近年は「稼ぐ力」を意識しているので「経済」の部署で取り組んでいる。商店街や街づくりのキーマンや鉄道事業者や、金融機関とそれぞれ連絡を取り合っている。関係者の組織化も考えている。

《居心地よく歩きたくなる駅前空間の創出》

・ 尼崎市内に13ある鉄道駅の周辺の特徴あるまちづくりのために既存の資源を活かし、多様な主体と連携して取り組んでいる。

・ 民間事業者や地域住民の動きにあわせて公共空間の利活用促進を通じて、協働する主体を見つけながら取り組んでいる。

・ 協働の例としては阪神出屋敷駅は地域住民の声から道路柵のペインティングイベントを行い合わせて出屋敷駅北緑地のリニューアルをおこなった。

・ 阪神尼崎駅中央公園の阪神電鉄によるリニューアルと周辺まち歩きの連携。

・ 阪急塚口駅前の民間開発に合わせて街路等に歩行者滞在空間を創出。

・ 国土交通省の歩行者利便増進道路の事業を活用するために公共空間利用に関する「担い手」の醸成を目指して、駅前空間の新しい使い方を考える社会実験を複数回行い、公共空間活用に対して行政がどう関わるかを探っている。

【質疑・回答】

Q. 公共空間利用の社会実験について

A. 社会実験として行っている阪急塚口駅前広場でのイベントは、現在は出店料無料で行っているがこの公共空間活用の「担い手」が醸成され、本格活用になった時は「担い手」に利益が出る形を目指している。



画像左：
尼崎市役所
行政視察の
様子
画像右：
阪急塚口駅
の様子

所 感 等

尼崎市は観光の取り組みの歴史は10年ほどであるが、地の利を活かし民間事業者や住民との連携がうまくいっている事例を視察することができた。

日頃から関係団体や住民とコミュニケーションを取ることで、多様な主体からの声と行政の方針の一致点を探り、市の事業に結びつけていくことが重要であると感じた。特にそれぞれの駅の周辺住民が自ら駅前広場のリニューアルに参画する事例は地域への愛着の醸成に非常に役立つものと感じた。

また、阪急塚口駅前広場のリニューアルに関しては民間開発と合わせる形での事業であるが、社会実験を重ねより活用しやすい公共広場を探る時間の重要性を感じた。

尼崎市には前日に到着し、阪神尼崎駅前の観光案内所にてまち歩きコースを紹介していただき、実際に歩くことができた。また、視察後の移動では阪急塚口駅まで移動し、実際の開発の様子を見ることができた。